

広報 もり 中部の森林

私の森語り「森林から学んだことを普及活動に活かす」
富山市科学博物館 学芸員 太田 道人

写真：三ツ緒伐りによる伐倒（東濃署管内）

特集

- ・ 伝統技術継承への協力
- ・ 緑の普及業務
- ・ 山へ出かけてみませんか

シリーズ

- ・ 現場最前線からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

2025/No.254



伝統技術継承への協力 御杣始祭：御用材伐採式

中部森林管理局では「木の文化」を支える側面から、文化財などへの大径材の供給を行うほか、伝統的な林業技術の継承にも協力しています。

斧による伝統的な伐採手法である「三ツ紐伐り」（三ツ緒伐り・三弦伐りともいう）は、三方向から斧を入れて伐採する方法です。木材の割れや裂けを防ぎ、安全に正しい方向へ伐倒できることから、大径材を伐倒する際に用いられてきました。現在では斧による伐採の機会はほとんどないため、次世代への技術継承が課題となっており、中部局では木曽地域の国有林を練習の場所として提供することにより協力しています。

今年度は伊勢神宮の式年遷宮用材を伐り出す行事が行われる年にあたり、六月二日に長野県上松町において「御杣始祭」、六月五日に岐阜県中津川市において「裏木曽御用材伐採式」が執り行われました。それぞれの地元の杣人が参加し、ご神木が伐採されましたので、その様子を写真でご紹介します。



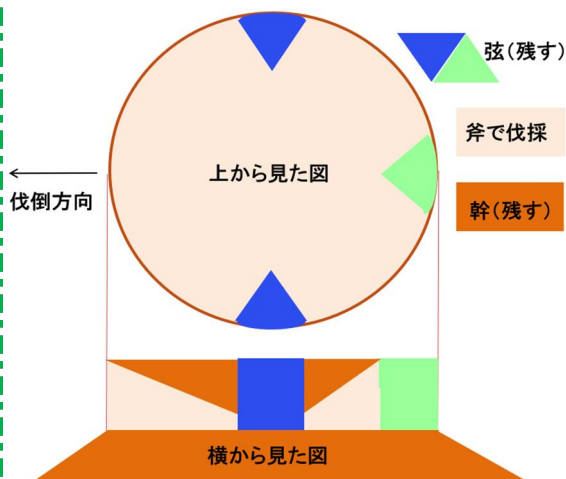
出典：国土地理院ウェブサイト(電子国土WEB)

<https://maps.gsi.go.jp/#10/35.774929/138.181915/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

上記地図上に御杣始祭・伐採式の会場を示した

上松では樹齢約 300 年の天然ヒノキが 2 本、中津川では樹齢 110 年の人工林ヒノキが 2 本伐採されました。人工林からご神木の伐採が行われるのは、今回が初めてとなります。

御杣始祭・裏木曽御用材伐採式の位置図



伝統的な伐採方法について
斧（ヨキ）だけを用いて伐採を行う方法を模式的に示したのが、左図になります。
伐倒方向を定め、その反対側の追い弦、支えとなる二箇所（横弦）の位置を決めます。この弦となる場所を残すように三方向から伐採を進めていきます。杣は交代しながらヨキを振るいますが、各々の利き手とは反対の側からもヨキを使う必要があるため、入念な練習が行われました。
三箇所（横弦）で支える形が完成したら掛け声とともに▼の弦にヨキを入れ、樹が傾き始めたら間髪をいれず二箇所（横弦）にもヨキを入れることで、定めた方向へ伐倒することが出来ます。

伐倒に関わる杉の方々をサポートする、裏方の杉のみなさんもおられます。



伐倒に従事する杉のみなさんも神事用の衣装を身に着け、雨の中で待っています。



6月3日は残念ながら朝から雨。小学生たちが傘をさして見学場所へ向かいます。



御杉始祭（長野県上松町）
木曽森林管理署 小川入国有林
おがわいり

雨が降りしき中、7名の杉が交代で斧（ヨキ）を振ります。3本の弦が完成するまで約1時間半。



伐採を始める前に
杉頭が伐倒の方向を確認しています。
（手前が地元の杉頭）



伐採が無事終わったことや、幹の部分の頂戴することへの御礼も込めて杉頭が切株に梢端を挿します。
株祭り、とぎだ
とも呼ばれます。



杉のみなさんの作業はまだまだ続きます……。

杉頭が
おおやま かみ ひだりよき
「大山の神 左 斧
よこやま いっぽん
横山 一本 寝るぞ～」
の掛け声とともに、伐倒方向と反対側の弦へヨキを入れます。「いよいよ寝るぞ～」の掛け声ですらにヨキを振り、幹が傾き始めたら残り 2 つの弦にもヨキを入れて伐倒します。写真は倒れる間際の様子です。



ご神木は無事に予定した方向へ、2本が重なる形で伐採されました。

ご神木に綱を
結わえて運び出
す段取りをする
様子。



← 次ページへ続く



ご神木を必要な長さに玉伐りします。これもヨキで行います。
さらに、ここから運び出す必要があります。



切株にあたらないよう曳き出す方向を決めます。



曳き出しには長野県林業大学校の学生が協力！
木遣り唄にあわせて杉の方と一緒に綱を引きます。

♪木曾の御山で育てられ 日ノ本一のこのひのき
伊勢の社におさめます えんやらよ〜いとせ〜♪
ヨイショ！ヨイショ！（掛け声にあわせて引きます）



ご神木を傷めないように舞台に並べられた丸太に注意しながら
ヨイショ！ヨイショ！ヨイショ！ヨイショ！



無事に曳き出されたご神木は、架線で吊り下げられて会場から移動し、トラックで化粧掛けを行う上松町まで運ばれました。



作業の合間には地元の若い杉が
テレビ取材を受けていました。



化粧掛けの作業は夜遅くまで行われました。



ヨキを振って木片が勢いよく飛びます。



地元のみなさんのほか、各地から応募した多くの方により、上松町内でご神木のお木曳きが行われました。



翌朝(6月4日)には、ご神木はきれいに
整えて台車に乗せられていました。

杉のみなさんが一列に並んで会場へ。



6月5日は快晴。抜けるような青空が広がっていました。



地元の中学生も見学しました。



途中、弦の位置や残し具合を皆で何度も確認しながら作業を進めていきました。



御用材伐採式（岐阜県中津川市）
東濃森林管理署 加子母裏木曽国有林
かしもうらきそ

ヨキを立てかけて伐採前の儀礼



斜面上へ伐倒する形になるため、安全を考慮してワイヤーを取り付けます。



写真上
手には梢端が(赤丸)
写真右上
梢端を届ける様子
写真右
鳥総立てをして一礼

掛け声とともに追い弦、横弦へヨキを入れ、ご神木が倒れる直前の様子。



2本のご神木は無事に、予定した方向へ重なる形で伐倒されました。(左側が地元の杉により伐採されたご神木)

斜面からのご神木の引きだしには重機が活躍。玉伐りしてクレーンで吊り上げ林道上へ移動します。



ご神木の切株。丸で囲んだ場所が3つの弦になります。緑が追い弦、青が横弦

いったん林道上でご神木の両端を削ります。

←次ページへ続く



到着したご神木は早速化粧掛けが進められます。

両端を荒削りされたご神木はトラックに積み
込まれ^{もりやま}護山神社へ向かいます。(写真右)
会場に残るのは切株のみ。(写真下)



何やら変わった
道具が。(写真右)
ご神木の両端を
均等に 16 面に削る
際の目安として利
用します。(写真左:
一部点線で強調)



杉の方の足元には使い込まれたヨキが。



削り具合を皆
で確認します。
その手元をよく
見てみると……

一日中ヨキを
振り続けた手
には痛々しいほ
どテーピングが
施されていました。



ご神木の樹皮(一部)を慎重に剥ぎます。



クレーンで吊り上げ(上)
積込完了!(下)



ズレのないように貼
り付けるため、ご神木
の下に入り込み位置を
確かめて、慎重かつ丁
寧に作業を進めます。

翌日(6月6日)早朝、仕上げにご神木の
両端へ和紙を糊で貼り付けます。



化粧掛けを終えたのは
夜9時を過ぎていました。



道の駅「花街道付知」に到着したトラックは、木遣り唄に
あわせて多くの人に曳かれながら広場を半周しました。



木遣り保存会の方や関係者が見守る中ご神木を載せたトラックは
護山神社を出発し、付知町内の旧道をゆっくり通過していきました。

緑の普及業務

中部森林管理局の技術普及課が年度当初に取り組んだ業務のうち、緑の普及の業務を紹介させていただきます。

I 植樹祭

緑の普及の業務では、国民の皆様
に森林・林業に関する様々なこと
について知っていただくため、森林環
境教育の推進や国民参加の森づく
り協定などを行っています。

もた

六月十四日（土）に長野県下高井
郡野沢温泉村で開催された「令和七
年度北信州森林祭・第七回長野県
植樹祭」にも参加し、長野県や関係



みどりの少年団による誓いのことば



主催者と来賓で建てた記念標柱

市町村、関係団体、地元小学生やみ
どりの少年団の皆様と一緒に、コナ
ラとクヌギの植樹をしました。当日
はあいにくの雨でしたが、小学生た
ちが「苗木もつとください！」と積
極的に植樹してくれました。

高性能林業機械のデモンストレ
ーションもあり、伐倒された木があ
つという間に枝払い・玉切りされて
丸太になるのを見て、小学生たちか
ら歓声が上がリ、それをニコニコと
見る大人たちという微笑ましい光
景も見られました。

思いを込めて植えたコナラやク
ヌギが大きく育ち、カブトムシやク
ワガタが集まるドングリの森にな
るのが楽しみです。



高性能林業機械が大人気



泥だらけになるのも構わず熱心に植樹



ミズナラのドングリ

(左:葉の裏側からは見えない、右:葉の表側からは見える)

II 豊凶調査

◆ドングリ(堅果類)

技術普及課では、毎年ドングリの
豊凶調査も実施しています。ツキノ
ワグマの秋期の主な餌となるドン
グリ(ブナ、コナラ、ミズナラ)の
豊凶が里地への出役に大きく影響
するとされていることから、八月か
ら九月にかけて調査を行っています。
調査自体は各森林事務所、森林
官等が行うことから、できるだけ分
かりやすく正確な調査方法にする
ため、学識経験者に相談しつつ試行
錯誤しています。

現行では、林道沿い等から双眼鏡を用いて、木の全体を眺め、平均的な結実箇所（枝の平均結実数）を数え、「着果枝の枝先の平均着果数」と、「着果している枝の割合」の 2 つの組み合わせにより評価します。実が葉の上側になるため、角度によつては見えないことがあるので、ドローン等のカメラで写真を撮って、パソコン上で写真に写る実を数えられないか検討しています。



フナの花(垂れ下がっているのは雄花)



ドローンのカメラで撮影した写真



ドローンと木枠(下から撮影したため高さに差があるように見えますが、実際の高さはほぼ同じです)

たため、関係機関等と情報交換しながら工夫していきたくと考えています。なお、写真では木枠が傾いていますが、こちらは木枠を下から支えるよう改良済みです。



長野県林業総合センターの方からのご説明

◆カラマツ
技術普及課では、ドングリの豊凶調査の参考にするため、六月十六日（月）に長野県と当局森林整備課が東信森林管理署管内の浅間山国有林で開催した山林種苗現地研修会（造林技術検討会）に参加し、カラマツの豊凶調査に係る注意点等を教えていただきました。大事なことは、標準木を調査者全員で確認して、調査員の評価の個人差をなくすることだそうです。同じ木の実成をみても、参加者の評価指数（指数一〜五）がバラバラでしたので、最初に認識を統一することはとても大事であると感じました。今回教えていただいたことをドングリの調査にも生かしたいと考えています。

Ⅲ カラマツエリートツリー 特定母樹展示林

前述のカラマツの種苗研修会のときには、技術普及課から令和五年度に設定したカラマツエリートツリー特定母樹展示林について、参加者の皆様に説明させていただきました。

エリートツリーとは、地域の人工造林地において、最も成長が優れた木として選抜された「精英樹」のうち、優良なものの同土を人工交配によりかけ合わせ、その中からさらに優れた個体を選んだものです。苗木の成長が良く雑草の背丈を越えるのが早ければ、それだけ下刈回数削減が期待できます。



参加者みんなで目合せ



左:展示林周辺のカラマツ、右:展示林内のカラマツエリートツリー

エリートツリーの中でも成長に係る特性が優れたものは、特に優良な種苗を生産するための「種子」や「さし穂」の採取に適するとして、特定母樹に指定されます。

展示林には、特定母樹の接ぎ木苗と、比較対象のために在来系統の精英樹の苗木を植栽しています。

特定母樹展示林内のカラマツは今はまだ小さいですが、これからの成長にご期待ください。

【技術普及課】

特定母樹とは



山へ出かけてみませんか 高山植物と涼を求めて

「日本百名山」

内容は知らなくても聞いたことはある、という方も多いのではないのでしょうか。登山家であり小説家でもあった深田久弥氏が、自ら登り、自ら定めた基準で選んだ国内一〇〇の名峰について紹介したもので、一九六四年に出版されました。

「花の百名山」

こちらは、作家の田中澄江氏が訪れた一〇〇の山々とそこに咲く花を紹介したもので、一九八〇年に出版されました。（その後何度か改版が行われています。）

「日本百名山」と「花の百名山」は重複する山もありますが、北・中央・南アルプスを擁する中部森林管理局の管内には、「日本百名山」が三十九、「花の百名山」が二十八あります（下図参照）。暑さが厳しくなる時期、管内各地の山へ出かけてみませんか。ハードな山登りをしなくても高山植物などに出会える場所もあります。



凡例
▲日本百名山
▲日本百名山・花の百名山
▲花の百名山

※掲載した写真には、百名山以外で撮影した管内の写真が含まれています。

中部森林管理局管内の日本百名山と花の百名山

花の百名山 ▲	山 名	所在	代表とされる花
	五色ヶ原	富山	クロユリ
	志賀高原	長野	イブキジャコウソウ
	高峰山	長野	コウリンカ
	縞枯山	長野	オサバグサ
	戸隠山	長野	クリンソウ
	守屋山	長野	ザゼンソウ
	根子岳	長野	ウメバチソウ
	弓折岳	岐阜	ムシトリスミレ
	葦毛湿原	愛知	シラタマホシクサ
	爺ヶ岳	富山・長野	カライトソウ
	双六岳	富山・岐阜	コバイケイソウ
	西穂高岳	長野・岐阜	センジュカンピ
	国師岳	長野・山梨	クモイコザクラ
	黒斑山	長野・群馬	ヒメシヤジン

日本百名山 & 花の百名山 ▲	山 名	所在	代表とされる花
	立山	富山	ミネズオウ
	薬師岳	富山	キバナシャクナゲ
	霧ヶ峰	長野	ヤナギラン
	木曽駒ヶ岳	長野	ヒメウスユキソウ
	白馬岳	富山・長野	コマクサ
	鹿島槍ヶ岳	富山・長野	タカネツメクサ
	黒部五郎岳	富山・岐阜	チングルマ
	槍ヶ岳	長野・岐阜	トウヤクリンドウ
	御嶽山	長野・岐阜	リンネソウ
	白山	岐阜・石川	ハクサンチドリ
	金峰山	長野・山梨	シャクナゲ
	仙丈ヶ岳	長野・山梨	シナノナデシコ
	苗場山	長野・新潟	ツルコケモモ
	浅間山	長野・群馬	ムラサキ

いもう
葦毛湿原は市街地近郊にある湿原でハイキング等に利用されています。

木曽駒ヶ岳はロープウェーを利用して標高2,600mまで登ることができます。降り立つと目の前にお花畑が広がります。左:コイワカガミ、右:ヒメウスユキソウ

霧ヶ峰から美ヶ原(百名山)は「ビーナスライン」を利用してドライブを楽しむことができます。ハイキングコースもあります。左:コオニユリ、右:ヤナギラン



チングルマは花(写真右)もきれいですが、開花後の綿毛(写真左)では全く違った表情を見せてくれます。場所によっては同時に2つの表情が見られるかもしれませんが(実はチングルマは「草」ではなく「樹木」です)。



・安全で楽しく過ごすために
・森林散策は自己責任が原則となります。お出かけの際には、歩きやすい服装や靴を身につけ、天候などに十分注意しましょう。
・樹木を傷つけたり、植物を持ち出したりしないようにしましょう。



←レク森はこちらから

日本百名山・花の百名山以外にも、中部局管内には広く森林に親しんでいただけるエリアがあり、森林浴や自然観察等に適した国有林として「レクリエーションの森」を選定しています。特に景観の優れた場所を「日本美しい森 お薦め国有林」としています。どうぞお出かけ下さい。

レクリエーションの森も
お待ちしております

シリーズ



現場最前線からの便り

国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

【東濃森林管理署】

中津川治山事業所

治山技術官 前田 達樹

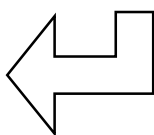
中津川治山事業所は岐阜県南東部（中津川市南部）の七、四四七ヘクタールに及ぶ流域の治山事業を主に担当しています。当該地域には木曽山脈の最南部に位置する恵那山（標高二、一九一m）を最高峰として焼山や鯉子山などの標高一、五〇〇m級の山が連なっており、中津川市街の重要な水源地帯となっています。

木曽山脈は主に花崗岩や花崗閃緑岩により構成されます。当地域内には恵那山断層等の多くの活断層が存在し、破砕作用の影響を受けて深層風化が著しいため、付近一帯は砂状風化「マサ化」により表層崩壊が発生しやすい状況にあります。湯舟沢国有林の温川流域最上部にあたる姥ナギ沢では大規模崩壊が確認され、平

成七年より復旧工事を行ってきました。これまでの工事で斜面の安定化や緑化が図られてきましたが、引き続き施工データの蓄積を生かしたり、林地化の経過観察をしたりしながら復旧工事を行う必要があります。



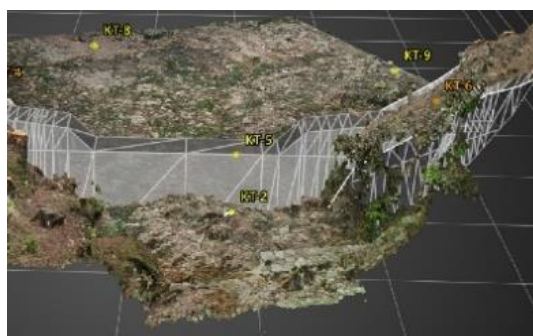
復旧工事着手前



近年の姥ナギ沢の状況

また、治山ダム施工地では、ICT建設機械による掘削施工や無人航空機によるレーザースキャナを用いた

出来形計測の実施等の取組みを行っている箇所もあります。これら取組みで、作業の省力化や品質確保の向上が期待されます。



無人航空機搭載レーザースキャナによる3次元計測データ

治山工事の実施にあたっては図面数量作成や工事費積算等の事務、工事受注者との調整や立会等の監督業務がありますが、施工地の状況に応じて刻々の進捗ごとに適切な検討対応が求められます。

仕事からは少々離れますが、異動先々のイベント参加も面白味のあるものだと思います。五月にあった市内での中津川リレーマラソン、職場

の若手四人一チームで参加してきました。順位は後ろから数えた方が早いですが、無事完走できたので万々歳です！！



現地確認の様子（写真中央筆者）

■未来の担い手へのメッセージ

治山事業は、山地災害から国民の生命・財産を守る重要な役割を担っています。近年は豪雨災害の激甚化等により、各地の対策がより求められます。新しい技術や工法も導入されつつあり学ぶことも多々ありますが、新たな知見を得て成長の実感にも繋がると 생각합니다。私たちと一緒に、治山事業を担って働いてみませんか！

シリーズ

私の森語り

もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に
挑戦されている方の取組を紹介します。「森林から学んだことを
普及活動に活かす」富山市科学博物館
学芸員
おおた みちひと
太田 道人

■自己紹介

富山市科学博物館の植物分野担当学芸員として四十三年間、主に富山県内をフィールドに自然を観察し、標本を集め、市民向けの自然観察会や博物館の展示更新などを行ってきました。また、国際山岳観光地「立山」で外来植物除去の指導、富山県全域で絶滅危惧植物の調査やとりまとめなども行っています。

■活動内容

「生命のつながりを教えてくれた森への恩返し」

立山の美女平(標高約一、〇〇〇m)ではタテヤマスギの巨木群を見られるのが特徴で、博物館主催の自然観察会を四十年以上続けています。巨大なスギの「あがりこ」が点在し、三世代に渡って倒木や切株により更新



根元に空洞のあるスギ
「500 年ほど前には、ここに倒木が横たわっていたんだよ」
～立山美女平の自然観察会での一コマ～

された痕跡から、数百年前の伐採の歴史を読み取ることができます。また、上部のブナ坂ではブナ林の多様な生物を楽しむことができます。私が見てきたわずか四十年程の間にも、大木の枯死や倒伏に何度か遭遇しました。はじめの頃は、森の象徴が一つ消えて残念、と思うだけでしたが、最近では、巨木の陰でいじけていた小さなブナが日の光を浴びて、がぜん元氣を取り戻して成長しているのを見て、喜びを感じています。森林の変化は人間から見れば「ゆっくり」ですが、その歩みは「着実」で、ブレない芯をもつ生命体のようにも思えます。私にとって美女平の森は、生命のつながりを教えてくれた先生です。この気づきを一人でも多くの市民に伝えていくことが、森への、ひいては

自然への恩返しだと思って取り組んでいます。

「森の展示で伝えたい」

思い返せば、「ウオークスルー・ブナ林」「高山植物のジオラマ」「夜の照葉樹林」「立山杉の巨大切株」など、私は森林の展示をいくつも作ってきました。森は、それぞれに巧みな生き方をしている生物が何千種類も集まり、互いにつながりあうことで成り立っている生態系です。その型にたどり着くまでに気の遠くなるような時間がかかっていることを思うと、自然の仕組みに畏敬の念さえ覚えます。

時間と空間を違えることで多様な生き物が生活できることや、種類のまったく違う生き物がどこかでつながっている。そんなことに気づく喜びを、展示を見てくださる人たちと分かち合えたらと思っています。



富山市科学博物館2階にある
森の展示の一部
カモシカ(手前)が来館した
子どもを眺めています

■メッセージ

立山室堂平(標高一、四五〇m)は、高山景観や植物、ライチョウなどが見られる観光地であると同時に、立山連峰への登山拠点であり、雪氷や生物調査の拠点でもあります。ここには、富山県の自然解説員「ナチュラリスト」がいて、観光客に花の名前や自然と人との関わりや歴史などを解説しています。また、外来植物除去を希望するボランティア団体へ除去指導も行っています。私もこれらの活動を応援しつつ、共に取り組んでいます。自然を大切に思う人が増えることを願って。



富山県の自然解説員
「ナチュラリスト」は自然と人をつなぐ役割を果たします

■連絡先

富山県富山市西中野町一丁目 8-31
富山市科学博物館
コードはこちら↓



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第 49 回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「神宮備林」その一



「木曽飛騨御料地位位置図」(昭和八年製図・昭和十四年修正)に神宮備林の位置を图示

江戸時代には尾張藩が領有していた木曽の山林の多くは明治維新を境に国の所有となり、明治二十年代には宮内省の「御料林」となりました。そして明治三十年代後半より、その中に「神宮備林」が設定され

ていくようになりました。

「神宮備林」は伊勢神宮の社殿等を二十年に一度新しく造り替える「神宮式年遷宮」の用材を供給することを目的とした森林です。時の明治天皇が神宮(伊勢)は古来の建て方のまま不変であるべきという意向を示したこと、明治三十年代の伐採と調査から将来的に式年遷宮行事に用いられるようなヒノキ大径木の供給が困難になることが予想されたことから、木曽の御料林において設定が進められました。

「神宮備林」には良質のヒノキ大樹が多い箇所、将来的な整備・木材の運搬に便利が良いところが選ばれ、明治三十九年から大正四年にかけて約八千四百畝の森林が指定されました(昭和八年には種別・地域の改定が行われています)。

恒久的なヒノキ大樹林の運営を目指した「神宮備林」ですが、昭和二十年の終戦の後、昭和二十二年の日本国憲法施行によつて宗教に対し国が特別の保護をすることが禁じられたため、神宮備林制度も廃止されることとなります。

「ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！

むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、下記コードを読み込んでください。



長野県希少野生動植物

夜叉猪手(ヤシャイノデ)

神の石シダ希少個体群保護林

設定目的

神の石^{かみのいし}の石灰岩地帯に自生するイノデ類のヤシャイノデは、中国大陸、ネパール、台湾に見られます。

我が国では2箇所を数えるのみであり、そのうちのひとつである当該個体群を保護しています。

地況・林況

当該保護林は、石灰岩地帯の溪畔林や斜面林^{しゃめんりん}にコケが付着した岩の上に生育したヤシャイノデの群落が見られるほか、シラビソ、ダケカンバ、シオジ、ウワミズザクラ等から構成される天然林となっています。

シリーズ

中部の保護林(第49回)



所在地
長野県飯田市上村

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。



各地からの便り

「国民の森」の見学会を実施

【木曽森林管理署】

六月一日、長野県王滝村の御岳国有林にて中日森友隊主催による「国民の森」見学会が開催され、十三名が参加しました。

「国民の森」は中日新聞社やボランティアの協力により、昭和五十九年の長野県西南部地震による大崩壊で発生した土石流が堆積した跡地に造成された森林です。六年ぶりの見学会に参加者は、林内を散策して当時植栽した樹木の成長を確認しながら「国民の森」を堪能しました。



まきい
幕岩展望台にて当署職員による説明

鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を実施

【岐阜森林管理署】

六月四日、下呂市農村活性化施設「きこりセンター」にて、「鳥獣保護及び狩猟に関する講習会」を開催し、関係市町村の担当職員及び飛騨、東濃の各署、森林技術・支援センター、当署職員を含む総勢四十四名が参加しました。

本講習会は、鳥獣保護や狩猟に関する知識と技術の向上を図ることを目的として実施したもので、午前に関係法令やシカ生息状況及び現状に関する講義、午後は小林式誘引捕獲法等によるくくり罠設置の実演を行いました。



小林式誘引捕獲法の実演

見通しの良い林内を 社会貢献活動として林内整備

【富山森林管理署】

六月十一日、富山市大沢野^{おさわの}国有林にて、名古屋林業土木協会富山支部主催の社会貢献活動として林内整備が実施され、小雨が降る中、当署職員を含む総勢二十六名が参加しました。

当地域は、山から吹きおろす風が河川敷を伝わり近隣の田畑に被害を及ぼさないよう防風保安林に指定されています。下層を整理して見通しの良い林内を確保することにより、防風保安林としての機能を維持するほか、近年周辺での出没が報告されているクマによる人身被害や、サルによる農作物被害への防止効果なども地域の方から期待されています。



防風保安林の林内整備参加者

各地からの便りの詳細については、ホームページをご覧ください。

広報「中部の森林」254号
発行:林野庁中部森林管理局
編集:総務企画部 総務課 広報

〒380-5875 長野県長野市栗田 715-5
電話:026-236-2531
<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu>



メールマガジンへ登録いただくと、広報「中部の森林」の発行日にURLを配信します。

(奇数月の発行を予定)

メールマガジンの登録サイト

<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry> において

配信を希望するメールマガジンの中から

中部森林管理局広報「中部の森林」を選択して下さい。